

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info@teisotoyoka.com

ペストコントロールとネズミ

先日、新しい年を迎えたかと思ったら、もう桜が散る時期になってしまいました。つくづく時の流れは速いと感じる今日この頃です。

さて、私たちの仕事は「ペストコントロール」と呼ばれています。この「ペスト」は英語の Pest のことで、「厄介者」という意味で私たちは使っています。しかし、一般的には、ドイツ語の Pest である黒死病(ちなみに英語では Plague です)と理解されることが多く、なかなか名称が業として社会に浸透しないのが現実のようです。ちなみに調べてみたところ、英語もドイツ語も、どちらもラテン語の Pestis が語源のようです。

ヨーロッパでは、14世紀半ばから20世紀前半にかけて、一時期は人口の3/4を死に至らしめた黒死病ですが、日本における初めての発生は、1893年(明治32年)秋であったという記録が残っているものの、幸いにも大流行はしなかったようです。これに対応すべく1897年(明治36年)に伝染病予防法(法定伝染病および指定伝染病その他の予防を目的とする法律)が制定されました。この時期に病気とペストが結びついていったのかも知れません。幸いなことに1926年(大正15年)以来、日本で黒死病は発生していません。

ペスト菌を媒介する生物としてネズミ類が挙げられ、当時警察に死鼠を持ち込むと1匹当たり5銭で買い取ってくれる制度があったそうです。菌を媒介したのはネズミ類に寄生するノミです。感染したネズミが菌に感染すると、その血を吸ったノミに菌が移ります。ネズミが死ぬなどしてノミが離れて宿主を失うとヒトを吸血します。ネズミ→ノミ→ヒトという感染環が成立していて、ネズミが大流行時に関与したのは明白なのですが、これほど大規模に流行した原因として、ヒト→ノミ→ヒトの方が多かったのではという説も今年出されました。

明治時代に作られた伝染病予防法は、1998年に感染症予防法(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律)として制定され、翌1999年4月に施行されるまで100年以上続きました。この改正には、 Dengue熱やマラリアなどの再興感染症に加え、重症重傷熱性呼吸器症候群(SARS)や新型インフルエンザ等の新興感染症への対応があったようです。

黒死病の懸念は日本ではあまりないかも知れませんが、ネズミは身近にいるほ乳類でペストコントロールの代表的な対象生物です。薬に対する抵抗性や運動能力、学習能力の要因で難防除になりがちです。また、天敵のいないヒトの領域はエサが豊富で、都会では増加傾向にあります。「皿を引け」の考えで、増やさないようにしてあげたいと思います。(MK)



今月のオススメ STRONTEC：コンパクトで設置場所を選ばない室内用の飛翔昆虫防除器です



(交換用カートリッジ)

微粒子状の薬剤噴霧で室内の飛翔昆虫の防除を自動で行なう防除機器です。ピレスロイド系の薬剤によって飛翔昆虫に対して即効性がありつつも薬剤の残留は少なく、煙も出ないのでオフィスや飲食店の客席にも安心してご使用いただけます。単三乾電池2本の電池駆動で最長3ヶ月使用でき、高さ23.5cm×奥行4.5cm×幅6cmとテレビのリモコンサイズの本体は電池と薬剤を含めても230gと軽く、両面テープでも壁面に十分に設置が可能です。

自然の復元力 Vol. 88

ここ数日の話題の一つに、東北・北海道地方のサクラ開花に関するものがあります。関東、中部、近畿、四国、中国、九州地方のサクラ開花時期は既に終わり、3月初旬でした。この様に日本は毎年3月～4月には満開の美しい桜の花を身近で観賞できる贅沢な国であります。サクラ好きの私たちにとって、気象庁からのサクラの開花宣言は春を知らせるものとして深い関心があり、満開の桜の花を毎年楽しんでいます。皆様も観賞されたことと思います。そんな中で気になるニュースがあります。気象庁は、2018年のサクラの開花時期が、全国的に例年よりも早まっていることを指摘しています。

1月下旬以降、2月にかけて非常に厳しい寒さとなったため、サクラの休眠打破が順調に進み、花芽が成長しやすい状態となっていたところ、気温が高い日が続いたため、開花が早まったと考えられるとのことです。そして、例年の開花調査の数値から、桜の開花時期の早期化が日本中で記録され、その結果、より暖かい地域ほど開花時期が早くなっていることも分かったとのことです。

サクラは夏に花芽ができ、晩秋から徐々に休眠に入ります。休眠に入った花の芽が、冬の寒さにさらされると、『休眠打破』のスイッチが押され、休眠中の花芽が覚醒され、春到来の準備を開始し、その後実際に春になって暖かくなると、どんどんと蕾が膨らんで開花となります。一方で、仮に冬の寒さが足りない、『休眠打破』ができなくて、暖かくなっても桜が十分に咲かない場合も生じるといいます。

2月までの寒さと3月に入ってからの暖かさという桜が早く咲くための条件が今年は揃ったので、桜が開花したといえます。1980年代と2010年から今年までの開花時期の平均値を比較すると、80年代が3月29日に咲いていましたが、後者は3月22日となり、両者に約1週間の差異がでました。また80年代と2010年代の平均気温を比べると、1月はあまり変わらない一方で、3月は1度以上気温が高くなっています。「休眠打破」が行われた上で、暖かくなって開花が早まるパターンが目立ってきているということです。年々早まる傾向の桜の開花。さらに、地球温暖化が進むと咲き方が大きく変わると指摘する専門家がいます。長年の気候の変動についての研究では、桜が咲いても満開にならなくなるとの予測も行われています。この予測のキー・ワーズは、「休眠打破」と「地球温暖化」です。真冬も気温が上がることによって「休眠打破」が起こらなくなり、花が咲かなくなる可能性があるということです。ところで、ソメイヨシノの花が咲くと数日後に花は落ちて葉が成長します。するとその葉を食べる、オビカレハ、サクラガ、ムラサキイラガ、オビカレハ、アメリカシロヒトリ、ドクガなどの昆虫の幼虫等の成長が桜の樹に見られます。また、そこに野鳥が飛んできて、昆虫の幼虫等を食べる姿が観察されます。このように、桜の開花が休眠打破できないと生態系がうまく回転しなくなって、様々な問題が生じてくることが予想されます。先週の異常気象はまだ4月だというのに関西地区等で気温30℃を記録しました。今夏は信じられないほどの暑い夏になるかと心配ですね。(Sin)



チョウバエ対策グッズ!!! Green Drain



グリーンドレインを、排水溝の径に合わせて密着させ設置すると、水は流れますが、配管の中を這い上がってくるチョウバエ等の害虫や悪臭を阻止することを目的とした商品です。殺虫剤を使用しませんので、環境にやさしいIPMの理念に則った物理的対策が可能です。配管のつなぎ目に設置できるなど、容易に取り付けることが可能で、長期間の効果が期待できます。お問い合わせはお気軽に。お待ちしております。



Eco Friendly Pest Management
自然にやさしい総合的有害生物管理

株式会社テイソートヨカ

IPM・コンサルティング・異物同定分析

有害生物(ネズミ、ゴキブリ等)管理・ノラト飛来防止施工

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info-teiso@teisotoyoka.com

本社・名古屋東営業所	〒468-0045	名古屋市天白区野並 2丁目 334 番地の 2	TEL 052-891-8311	FAX 052-891-8440
名古屋西営業所	〒453-0818	名古屋市中村区千成通 4丁目 18 番地	TEL 052-482-6591	FAX 052-482-8778
三重営業所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-345-3571	FAX 059-345-3572
岐阜営業所	〒501-6264	岐阜県羽島市小熊町島 4丁目 61 番	TEL 058-392-6454	FAX 058-392-6407
北陸営業所	〒920-0356	石川県金沢市専光寺町 47 番地 1	TEL 076-266-6474	FAX 076-267-6480
新潟営業所	〒950-0993	新潟県新潟市中央区上所中 2丁目 1 番 7 号	TEL 025-283-6474	FAX 025-283-6497
四日市技術研究所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-325-6431	FAX 059-325-6430